

第15回 静岡市新型コロナウイルス感染症対策本部会議

日時 令和3年8月19日（木）
午後5時から午後5時30分まで
会場 静岡庁舎 新館8階 市長公室 ほか

次 第

- 1 開 会

- 2 【報告事項】
市内の感染状況等について . . .【資料1】

- 3 【周知事項】
緊急事態宣言の概要 . . .【資料2】
 - ・ 飲食店事業者への要請について
 - ・ 飲食店以外の施設への要請について
 - ・ 催物（イベント）の開催制限等について 等
 - ・ 参考：要請内容の詳細

- 4 【市の対応方針】
緊急事態宣言の適用に係る市の対応方針について
 - ・ 市民等への周知啓発等について . . .【資料3】
 - ・ 公の施設の管理運営に関する基本的な考え方 . . .【資料4】
 - ・ 催物の開催に関する基本的な考え方 . . .【資料5】
 - ・ 学校等の活動における基本的な考え方 . . .【資料6】

- 5 【指示事項】
本部長からの指示事項

- 6 閉 会

第15回 静岡市新型コロナウイルス感染症対策本部会議

日 時： 令和3年8月19日（木） 午後5時から午後5時30分まで

場 所： 静岡庁舎新館 8階 市長公室……………①
 静岡庁舎新館 9階 テレビ会議室…②
 駿河区役所 3階 テレビ会議室…③
 清水庁舎 4階 テレビ会議室…④
 各庁舎 自席……………⑤

出席者：

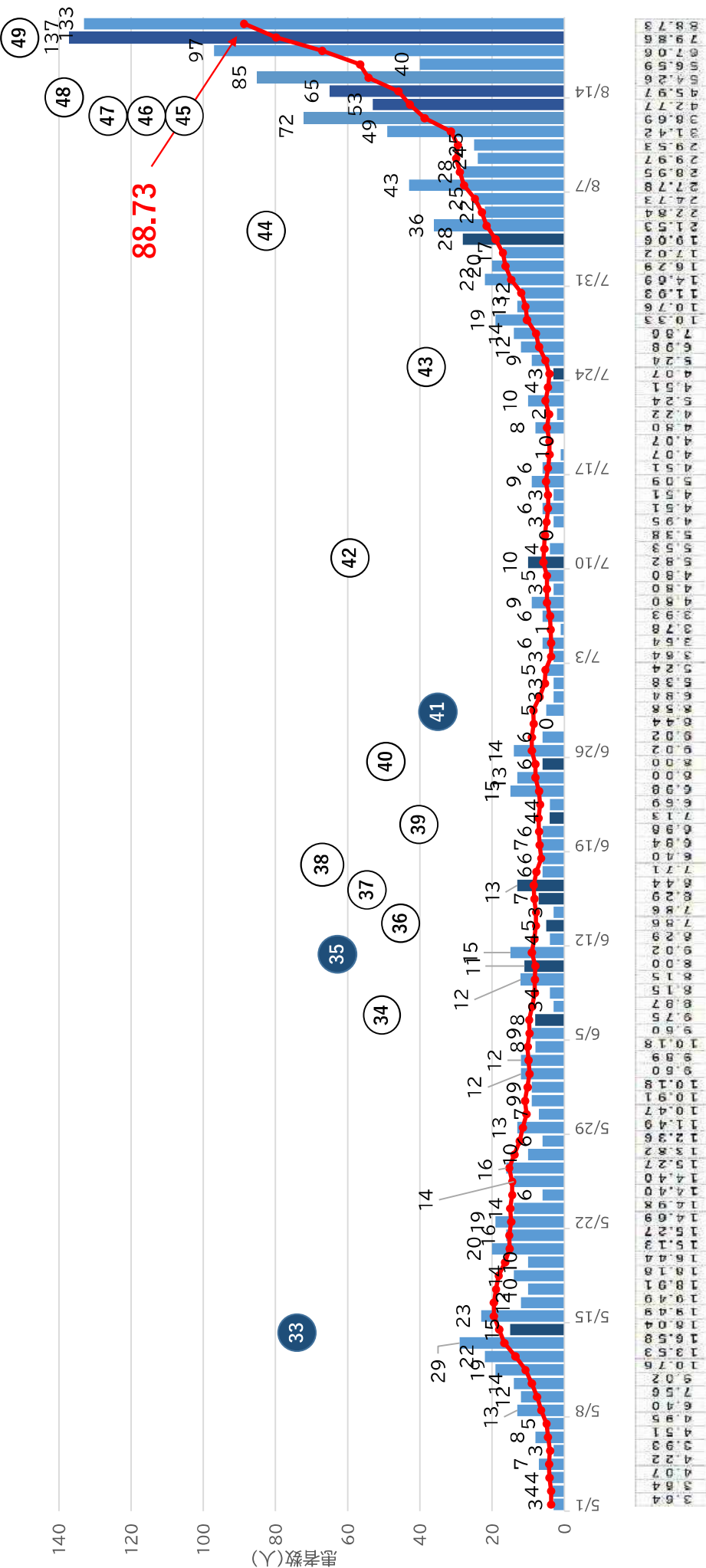
1	本部長	市長	田辺 信宏	①
2	副本部長	副市長	大長 義之	⑤
3	副本部長	副市長	本田 武志	⑤
4	本部員	危機管理統括監	梶山 知	①
5	本部員	教育長	赤堀 文宣	④
6	本部員	市理事	吉井 博昭	⑤
7	本部員	市理事	川崎 豊	④
8	本部員	連携調整監	大村 明弘	⑤
9	本部員	総務局長	渡辺 裕一	⑤
10	本部員	企画局長	松浦 高之	⑤
11	本部員	財政局長	大石 貴生	⑤
12	本部員	市民局長	秋山 健	⑤
13	本部員	葵区長	前田 誠彦	⑤
14	本部員	駿河区長	田中 朗	③
15	本部員	清水区長	堀池 明	④
16	本部員	観光交流文化局長	望月 哲也	⑤
17	本部員	環境局長	藪崎 徹	⑤
18	本部員	保健福祉長寿局長	杉山 友章	⑤
19	本部員	保健衛生医療統括監	長谷川 誠	⑤
20	本部員	保健所統括監	松田 仁之	⑤
21	本部員	子ども未来局長	青野 志能生	⑤
22	本部員	経済局長	加納 弘敏	⑤
23	本部員	都市局長	宮原 晃樹	⑤
24	本部員	建設局長	海野 強	⑤
25	本部員	会計管理者	丸岡 浩三	⑤
26	本部員	消防長	小長井 善文	③
27	本部員	上下水道局長	服部 憲文	⑤
28	本部員	教育局長	青嶋 浩義	④
29	本部員	議会事務局長	森井 聡	⑤
30	オブザーバー	選挙管理委員会事務局長	青木 陽一郎	⑤
31	オブザーバー	人事委員会事務局長	梶山 雅代	⑤
32	オブザーバー	監査委員事務局長	高田 和昌	⑤
33	オブザーバー	農業委員会事務局長	増田 雅之	②
34	—	保健福祉長寿局次長	吉永 幸生	①

資料 1

新型コロナウイルス感染症患者の発生状況

2021年8月19日

※○の数字はクラスター番号で、青地白抜き数字の●は接待・カラオケを伴う飲食店の発生事例



感染状況のステージ判断のための指標

2021年8月19日

	医療提供体制等の負荷		監視体制	感染の状況		
	①病床のひっ迫具合			④10万人あたり 新規報告数	⑤直近一週間と 先週一週間の 比較	⑥感染経路 不明割合
	病床全体	うち重症者用 病床				
静岡市	県中部 66.1%	県中部 36.8%	25.2%	88.73	2.29	58.7%
	8/18	8/18	陽性者 550 検査数 2,180 うち医療機関 1,487 8/11 ~ 8/17	療養者 380 8/17	先週 266 8/6 ~ 8/12 直近 610 8/13 ~ 8/19	
ステージ3 の指標	20%以上	20%以上	5%以上	15人以上		50%以上
ステージ4 の指標	50%以上	50%以上	10%以上	25人以上		50%以上

県東部	53.6%	県東部	80.0%
県中部	66.1%	県中部	36.8%
県西部	49.5%	県西部	23.3%
県全体	56.1%	県全体	33.3%

(参考)

※確認中は除く。

新型コロナウイルスワクチン接種に係る情報提供

1 新型コロナウイルスワクチン接種に係る基礎データ

(1) ワクチン接種者数と接種率 8/12時点

区分	対象者数(人)	1回目		2回目	
		接種者数(人)	接種率%	接種者数(人)	接種率%
65歳以上	218,889	177,267	80.98	166,423	76.03
60-64歳	41,712	20,252	48.55	14,427	34.59
50-59歳	96,863	15,919	16.43	9,384	9.69
12-49歳	279,177	21,641	7.75	14,646	5.25
11歳以下	55,356	—	—	—	—
計	691,997	235,079	33.97	204,880	29.61

※接種者数＝VRS(ワクチン接種記録システム)への入力数値

【参考】

8/12時点

国と静岡県の状況 (政府CIOポータルより)		1回目	2回目
		接種率%	接種率%
国	65歳以上	88.11	83.41
	全人口	40.01	30.39
静岡県	65歳以上	87.77	81.99
	全人口	37.74	28.50

新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく
緊急事態措置に係る静岡県の対応方針

令和3年8月17日、新型インフルエンザ等対策特別措置法（以下、「法」という。）第32条第1項に基づく緊急事態宣言を受け、政府対策本部の基本的対処方針に基づき、次の必要な措置等を行う。

1 措置を実施する期間

令和3年8月20日（金）～9月12日（日）

2 措置の対象とする区域

静岡県全域

3 実施する措置の内容

(1) 基本方針

・デルタ株をはじめとする新たな変異株ウイルスは、従来株やアルファ株に比べ感染力が非常に強く、若年層への急速な感染拡大やワクチン接種が終わっていない成人の重症化が懸念されている。このことから、社会経済活動を継続しつつ、感染拡大を防止し、重症者・死亡者の発生を可能な限り抑制するため、ワクチン接種の円滑化・加速化をはじめ、飲食機会での対策の徹底・人流の抑制、検査・サーベイランスの強化、医療提供体制等の一層の確保等の取組を総合的に進めていく。

(2) 県民への要請

ア 県民への外出自粛要請

・法第45条第1項の規定に基づき、県民に対し、日中を含め、不要不急の外出自粛を要請する。特に、飲食店等に対して営業時間の短縮を要請する20時以降の不要不急の外出自粛を要請する。

ただし、医療機関への通院や食料・医療品・生活必需品の買い出し、職場への出勤、屋外での運動や散歩など生活や健康の維持のために必要なものを除

く。

イ 県境を跨ぐ移動制限

- ・すべての都道府県との不要不急の移動・往来は自粛を要請する。どうしても避けられない場合は感染防止策の徹底とともに、出発前又は到着地での検査を受診することを勧める。

ウ 「密」の回避

- ・3密（「密閉」「密集」「密接」）の条件が揃う場面において、感染が拡大するとされているが、デルタ株の強い感染力を踏まえ、たとえ「1密」であっても回避することが求められる。混雑している時間や場所等への外出を極力減らすとともに、人と人との距離を従来以上に離すことを心がけ、屋外であっても密にならない行動をするよう注意喚起する。

エ 会話や歌唱の際の注意

- ・マスクを着用していない会話や歌唱などで感染が拡大する事例を踏まえ、室内や移動中の車内、カラオケでの感染に注意するよう呼びかける。また、デルタ株の強い感染力を踏まえ、マスクを着用していても、大声の会話・歌唱については、屋外を含めて、感染リスクが高まることを注意喚起する。

オ 飲食の際の注意

- ・飲食の場での感染リスクが高いことを踏まえ、飲食時の黙食と会話時のマスク着用の徹底を呼びかける。
- ・未成年者による飲食クラスターの発生事例があることから、親睦会等の飲食機会の回避又は感染防止対策の徹底を呼びかける。
- ・仲間同士で行うバーベキューやホームパーティーでの感染拡大が見られることから、同居家族以外との多人数での飲食をはじめ、路上や公園等における集団での飲食は行わないよう呼びかける。

カ 飲食店等での対策

- ・法第45条第1項に基づき、県民に対し、感染対策が徹底されていない飲食店等や休業要請又は営業時間短縮の要請に応じていない飲食店等の利用を厳に控えるよう要請する。
- ・飲食店を利用する場合は、本県が推進している「ふじのくに安全・安心（飲

食店) 認証」を受けた店舗を利用するよう呼びかける。県の認証店舗が近くにない場合は、市町や飲食業団体が一定の感染対策を実施していると認めている店舗を利用するよう呼びかける。

(3) 事業者等への要請

ア 飲食店事業者への要請

- ・食品衛生法の飲食店営業許可を受けた飲食店等（飲食店営業許可を受けている結婚式場を含む。ただし、デリバリー、テイクアウト、ホテル・旅館等の宿泊者に限定して食事を提供する食堂等は除く。）に対し、次のとおり要請する。

要請期間：令和3年8月20日（金）0時から9月12日（日）24時まで
営業時間・酒類提供・カラオケ設備使用についての要請
<p>(法第45条第2項に基づく要請)</p> <p>I 酒類又はカラオケ設備を提供する飲食店等（飲食業の許可を受けていないカラオケ店を含む。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休業の要請 <p>II 上記以外の飲食店</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業時間の短縮要請（5時から20時までの営業時間とする） <p>※酒及びカラオケ設備の提供を行わないこととする飲食店は「II 上記以外の飲食店」に該当する。</p>
営業にあたっての要請内容
<p>(法第45条第2項に基づく要請)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業員に対する検査を受けることの推奨 ・入場者の整理等 ・感染防止措置を実施しない者の入場の禁止（入場済みの者の退場を含む） ・手指消毒設備の設置と施設の換気 ・マスクの着用その他の感染防止措置を入場者に対して周知すること ・アクリル板等の設置又は入場者の適切な距離の確保等飛沫感染防止等の対策を行うこと
<p>(法第24条第9項に基づく要請)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに安全・安心認証（飲食店）を取得するなど、感染防止対策の業種別ガイドラインを遵守すること

イ 飲食店以外の施設への要請

- ・大規模集客施設等に対し、次のとおり要請する。

要請期間：令和3年8月20日（金）0時から9月12日（日）24時まで		
■商業施設等		
施設の種類	内 訳	1,000㎡超
商業施設 （法施行令第11条第1項第7号）	大規模小売店、百貨店、ショッピングセンター、スーパー等	（法第24条第9項に基づく要請） ・営業時間は5時から20時まで （法第45条第2項に基づく要請） ・人数管理、人数整理、誘導等の「入場者の整理等」の要請
遊技施設（第9号）	マーチャン店、パチンコ店、ゲームセンター等	
遊興施設※（食品衛生法の飲食店営業許可を受けている店舗を除く）（第11号）	個室ビデオ店、射的場、勝馬投票券販売所等	
サービス業を営む施設（生活必需サービスを除く）（第12号）	スーパー銭湯、ネイルサロン、エステサロン、リラクゼーション等	
■商業施設以外の施設		
施設の種類	内 訳	1,000㎡超
劇場、映画館等 （法施行令第11条第1項第4号）	劇場、観覧場、演芸場、映画館、プラネタリウム等	（法第24条第9項に基づく要請） ・20時までの営業時間短縮要請 ・人数上限5,000人かつ収容率50%以内の要請 ※イベント開催の場合は21時までの営業可
集会・展示施設 （第5号、6号）	集会場、公会堂、展示場、貸会議室、文化会館、多目的ホール	
ホテル・旅館 （第8号）	ホテル・旅館（集会の用に供する部分に限る）	
運動施設、遊技施設 （第9号）	体育館、スケート場、水泳場、屋内テニス場、柔剣道場、ボウリング場、スポーツジム、ホットヨガ、ヨガスタジオ、野球場、ゴルフ場、陸上競技場、屋外テニス場、ゴルフ練習場、バッティング練習場、テーマパーク、遊園地等	
博物館等（第10号）	博物館、美術館等	

※遊興施設のうち、食品衛生法上の飲食店営業許可を受けている店舗は、飲食店の取扱いによる法第45条第2項に基づく要請の対象となる。

- ・イベント関連施設の利用は、3（3）ウ「催物（イベント）の開催制限等」の遵守を要請する。
- ・感染の防止のための入場者の整理及び誘導、発熱その他の症状を呈している者の入場の禁止を要請する。
- ・飲食を提供する場合は、飲食店か否かにかかわらず、飲食店に対する営業時間短縮及び酒類提供自粛の要請内容に準ずる。
- ・百貨店の地下の食品売り場等、人が密集する可能性のある場所については、感染リスクが高いとされていることから、法第24条第9項に基づき、施設管理者等に対し、「入場者の整理等」を行うよう要請する。

ウ 催物（イベント）の開催制限等

（ア）開催制限の目安

- ・収容率(50%以内)または人数上限(5,000人以下)のいずれか小さい方
- ・営業時間：21時まで

（イ）主催者における感染対策

- ・県内で開催される催物等において、主催者に、マスクの着用、入場時の検温、密の回避などの基本的な感染防止対策の徹底をはじめ、参加者名簿の作成、事前予約の実施、接触確認アプリ（COCOA）の活用など適正な実施を働きかける。
- ・また、県境を跨ぐ移動・往来の自粛を要請している趣旨を踏まえ、全国的な催物の開催については、主催者から県外の参加者に対し、参加の自粛を呼びかけるなど慎重な対応を図るよう要請する。
- ・なお、飲食の取扱いについては、酒類提供を含め飲食店に対する要請内容に準じるよう働きかける。

（ウ）事前相談の対応

- ・参加者が1,000人を超える催物又は全国的・広域的な移動を伴う催物は、県と事前相談を行うよう主催者に要請する。

（エ）県主催又は共催となっているイベント等への対応

- ・県主催のイベント等は、中止・見直しを検討する。
- ・県が共催となっているイベント等については、主催者に対し、中止・見直しを働きかける。

エ 公立の文化施設等への要請

- ・県有施設は、開館時間の短縮、人数制限の強化等、感染防止策の更なる徹底を行うこととし、施設管理者や指定管理者等に要請する。ただし、周遊の促進につながる観光施設については、原則休館とするよう施設管理者や指定管理者等に要請する。
- ・また、各市町に対して、所管する施設において県有施設と同様の対応を要請する。

オ 事業所、医療・福祉施設等での対策

- ・業種別ガイドラインによる感染防止対策の徹底をはじめ、換気・湿度・二酸化炭素濃度などの管理を行い、感染しにくい環境を確保するよう呼びかける。
- ・入館・入室者の検温、施設利用自粛、マスク着用、手指消毒などの徹底を呼びかけるとともに、顧客や利用者の名簿作成、接触確認アプリ（COCOA）の活用などの対策を呼びかける。
- ・感染リスクが高まる「5つの場面」の回避、特に、「居場所の切り替わり」時（休憩室、更衣室、喫煙室等）の感染防止対策について注意喚起する。
- ・事業者に対しては、在宅勤務（テレワーク）、時差通勤、自転車通勤、人との接触を低減する取組など、「出勤者の7割削減」を含めた感染防止対策の強化とともに、20時以降の勤務を抑制することを要請する。

カ 学校教育活動での対策

- ・デルタ株等の変異株ウイルスについては、若年層への感染拡大が従来株よりも強く懸念されることから、児童・生徒・学生に対し、危機感の醸成及び基本的な感染防止対策の更なる徹底を周知する。
- ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、学習塾等においては、感染防止対策の徹底を図るとともに、部活動など感染リスクの高い活動等の制限を要請する。
- ・大学等における、遠隔授業等を活用した学修者本位の効果的な授業の実施はもとより、その他の学校においてもオンライン授業など授業方法の工夫や時差通学の実施など、感染リスクの低減を図るための対策の実施を要請する。

キ クラスター発生の抑制

- ・デルタ株の感染力は強く、様々な施設・団体にクラスターが発生すると見込まれることから、高齢者・障害者・児童福祉施設、幼稚園等及び学校に対し、抗原定性簡易キットを配布し、感染者の早期発見に努める。また、事業者に対して、社員、職員などの体調管理を徹底し、すぐれない者については、休暇及び検査を推奨することを徹底する。

4 医療提供体制及び療養体制の充実・強化

(1) 確保病床の有効活用の促進

- ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下「感染症予防法」という。）第16条の2第1項に基づき県内医療機関に対して協力要請して確保した病床を有効に活用するため、退院基準を満たす前でも軽快した患者については、転床、転院又は退院（自宅療養）を促進する。このため、後方支援病院の確保や自宅療養体制を整える。
- ・また、軽症から中等症への病状の悪化を防止し、病院への転院を抑制するため、軽症者療養施設において、抗体カクテル療法を行う体制を整備する。

(2) 宿泊療養及び自宅療養機能の強化

- ・宿泊療養施設において、看護できる症状を拡大するため、臨時医療施設を設置し、投薬、酸素投与等の治療行為が実施できる体制を整備する。また、自宅療養者については、身近な診療所等で診療できる体制を構築する。

(3) 保健所機能の維持

- ・感染対策の最前線にある保健所における積極的疫学調査や陽性者の入院調整の機能を維持するため、医療系職員を中心に全庁的な応援体制をとるとともに、業務のアウトソーシング化を一層推進する。

(4) 臨時病床の設置

- ・入院病床において新規の受入が不可能になり、入院すべき患者が入院できない事態を想定し、臨時病床の設置を早急に具体化する。

5 ワクチン接種の推進

- ・ワクチン接種は、新型コロナウイルス対策の切り札である。このため市町が進めるワクチン接種の計画が可能な限り前倒しできるよう支援していく。また、副反応等の情報を適切に県民に提供し、接種に対する不安を取り除く取組を進める。

6 経済・雇用対策

- ・飲食店や宿泊施設の持続的な経営と利用者の安全安心を確保するため、店舗や施設ごとに感染防止対策を認証する「ふじのくに安全・安心認証制度」の普及を図

ると共に、認証取得に要した感染対策経費を支援する。

- ・感染症の動向と経済に与える影響を的確に把握し、感染防止対策を講じつつ、県制度融資による資金繰り支援、雇用調整助成金等による雇用維持などに引き続き注力していく。
- ・全国知事会と歩調をあわせ、持続化給付金の再度の支給や雇用調整助成金の特例措置の延長等について、国に対して強く求めていく。
- ・事業者等への要請に対する協力金や、中小企業等応援金について、事前相談の窓口を設置し、その体制を充実させることで早期の申請・支給につなげていく。
- ・G o T o E a t キャンペーン事業について、引き続き、テイクアウト、デリバリーを除き、発行済みの食事券の利用自粛を呼びかける。
- ・地域観光支援事業である「バイ・シズオカ～今こそ！しずおか！！元気旅！！～」については、既に新たな予約に対する割引を停止しており、緊急事態措置の実施期間中は再開しない。

7 誹謗中傷等の根絶に向けた呼びかけ

- ・感染された方やその治療に懸命に対応されている医療従事者の方々をはじめ、飲食等の業界に携わる事業者・従業員、用事があって来県した他地域の方などを対象とした心ない誹謗中傷や差別的対応の根絶に向けた啓発を継続的に実施する。

飲食店への休業、営業時間短縮要請について

8月20日～

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、緊急事態宣言の対象となった県内の飲食店に対し、新型インフルエンザ等対策特別措置法第45条第2項に基づき、下記のとおり休業、営業時間の短縮要請を行います。また、要請に応じていただいた店舗に対する協力金の支給を行います。

記

1. 休業、営業時間の短縮要請の概要

- (1) 要請内容 飲食店等に対しての休業、営業時間の短縮要請
- (2) 対象区域 県内全域
- (3) 対象施設 飲食店
- (4) 要請期間 令和3年8月20日（金）0時から令和3年9月12日（日）24時まで[24日間]

※川根本町のみ準備期間として8月20日、21日の2日間を設ける。

(5) 要請内容

①営業時間・酒類提供・カラオケ設備使用についての要請

A. 酒類又はカラオケ設備を提供する飲食店は休業すること※

B. 上記以外の飲食店（宅配・テイクアウトを除く。）は午後8時から翌日午前5時まで営業を自粛すること

※酒類及びカラオケ設備の提供を行わないこととする飲食店は、「B. 上記以外の飲食店」に該当する。

②営業にあたっての要請内容

- ・従業員に対する検査を受けることの推奨
- ・入場者の整理等
- ・感染防止措置を実施しない者の入場の禁止（入場済みの者の退場を含む）
- ・手指消毒設備の設置と施設の換気
- ・マスクの着用その他の感染防止措置を入場者に対して周知すること
- ・アクリル板等の設置又は入場者の適切な距離の確保等飛沫感染防止等の対策を行うこと
- ・ふじのくに安全・安心認証（飲食店）を取得するなど、感染防止対策の業種別ガイドラインを遵守すること

2. 協力金制度の概要

(1) 対象事業者

- ・対象区域内の飲食店で要請に応じた事業者
- ・対象区域に施設を有する企業及び個人事業主
- ・静岡県暴力団排除条例第2条に規定する暴力団関係者でないこと

(2) 支給条件

- ・ふじのくに安全・安心認証（飲食店）を取得するなど、感染防止対策の業種別ガイドラインを遵守していること
- ・全ての期間において要請に応じていること（川根本町のみ要請準備期間を設ける）
- ・営業時間が通常において午後8時前に終了する、酒類を提供する飲食店については、休業に応じた場合に支給の対象となることに留意すること。

(3) 金額

- ・中小企業：4万円～10万円（日あたり売上高の4割）× 協力日数（店舗あたり）
- ・大企業（中小企業で希望する者を含む）：（日あたり売上減少額の4割）※ × 協力日数（店舗あたり）

※上限額は20万円

<協力金支給、不支給の例> (感染拡大防止の取組を行い、休業、営業時間の短縮を実施○)

ケース	20 日	21 日	22 日	23 日	24 日	25 日	～	9/9 日	10 日	11 日	12 日	協力金
	休業、時短要請期間											
①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	支給 (24 日分)
②	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	不支給
③	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	不支給
④	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	不支給

【川根本町のみ準備期間を設けるため、例外的に以下の状況にて支給する】

<協力金支給、不支給の例> (感染拡大防止の取組を行い、休業、営業時間の短縮を実施○)

ケース	20 日	21 日	22 日	23 日	24 日	25 日	～	9/9 日	10 日	11 日	12 日	協力金
	準備期間		休業、時短要請期間									
①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	支給 (24 日分)
②	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	支給 (23 日分)
③	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	支給 (22 日分)
④	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	不支給
⑤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	不支給

大規模な集客施設等への営業時間短縮要請について

8月20日～

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、緊急事態宣言の対象となった県内の大規模な集客施設に対し、新型インフルエンザ等対策特別措置法第24条第9項に基づき、下記のとおり営業時間の短縮要請を行います。また、要請に応じていただいた施設に対する協力金の支給を行います。

記

1. 営業時間の短縮要請の概要

(1) 要請内容

① 営業時間の短縮要請

午前5時から午後8時までの営業時間（イベント開催の場合は午後9時までの営業が可能）

② 商業施設等に対して、人数管理、人数整理、誘導等の「入場者の整理等」の要請

③ 商業施設以外の施設に対して、人数上限5,000人かつ収容率50%以内の要請

(2) 対象区域 県内全域

(3) 対象施設 大規模な集客施設（詳細は3を参照）

（通常の営業時間が午前5時から午後8時までの場合は、営業時間短縮要請の対象外）

(4) 要請期間 令和3年8月20日（金）0時から令和3年9月12日（日）24時まで[24日間]

※川根本町のみ準備期間として8月20日、21日の2日間を設ける。

(5) 営業自粛時間 午後8時から翌朝午前5時まで

（イベント開催の場合は午後9時から翌朝午前5時まで）

(6) 留意事項

- ・ 感染の防止のための入場者の整理及び誘導、発熱その他の症状を呈している者の入場の禁止を要請する
- ・ 飲食を提供する場合は、飲食店か否かにかかわらず、飲食店に対する営業時間短縮及び酒類提供（利用者による酒類の持ち込み含む）自粛の要請内容に準じること
- ・ 飲食を伴わない（飲食店営業許可を受けていない）カラオケ店については、終日休業を要請する
※飲食店営業許可を受けているカラオケ店は、「飲食店への休業、営業時間短縮要請」と同様の取扱いとなる。

2. 協力金制度の概要

(1) 対象事業者

- ・ 対象区域内の施設で要請に応じた事業者
- ・ 対象区域に対象施設を有する企業及び個人事業主
- ・ 静岡県暴力団排除条例第2条に規定する暴力団関係者でないこと

(2) 支給条件

- ・ 時短要請準備期間を除き、全ての期間において要請に応じていること

(3) 金額（店舗あたり）

- ・ 大規模施設：自己利用部分面積1,000m²毎に20万円/日×（（短縮した時間）/（本来の営業時間））×協力日数
- ・ テナント：自己利用部分面積100m²毎に2万円/日×（（短縮した時間）/（本来の営業時間））×協力日数

<協力金支給、不支給の例> (感染拡大防止の取組を行い、営業時間の短縮を実施○)

ケース	20 日	21 日	22 日	23 日	24 日	25 日	～	9/9 日	10 日	11 日	12 日	協力金
	休業、時短要請期間											
①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	支給 (24 日分)
②	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	不支給
③	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	不支給
④	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	不支給

【川根本町のみ準備期間を設けるため、例外的に以下の状況にて支給する】

<協力金支給、不支給の例> (感染拡大防止の取組を行い、営業時間の短縮を実施○)

ケース	20 日	21 日	22 日	23 日	24 日	25 日	～	9/9 日	10 日	11 日	12 日	協力金
	準備期間		休業、時短要請期間									
①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	支給 (24 日分)
②	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	支給 (23 日分)
③	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	支給 (22 日分)
④	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	不支給
⑤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	不支給

3. 大規模な集客施設 (建築物の床面積の合計が 1,000m² 超) について

分類	対象施設	要請
イベント 関連施設	劇場、観覧場、映画館、演芸場 など	○人数上限5,000人かつ収容率50%以内 ○午後8時までの営業時間短縮 (イベント開催時は午後9時まで) ○映画館は午後9時まで
	集会場、公会堂 など	
	展示場、貸会議室、文化会館、多目的ホール など	
	ホテル又は旅館 (集会の用に供する部分に限る)	
	体育館、スケート場、水泳場、屋内テニスコート、柔剣道場、ボウリング場、テーマパーク、遊園地、野球場、ゴルフ場、陸上競技場、屋外テニスコート、ゴルフ練習場、バッティング練習場、スポーツクラブ、ホットヨガ、ヨガスタジオ など	
	博物館、美術館、科学館、記念館、水族館、動物園、植物園 など	
商業施設	マージャン店、パチンコ店、ゲームセンター など	○午後8時までの営業時間短縮 ○人数管理、人数整理、誘導等の「入場者の整理等」
	個室ビデオ店、個室付浴場業に係る公衆浴場、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場 など	
	スーパー銭湯、ネイルサロン、エステティック業、リラクゼーション業 など	
	大規模小売店、ショッピングセンター、百貨店、家電量販店 など	

市民等への周知啓発等について

感染力の強いデルタ株の影響により、これまでにない勢いで感染が急拡大している。市民の「いのち」を守るため、感染拡大防止に対し、最大限の協力をしていただくよう、丁寧かつ分かりやすく説明すること。

【1. 市民への意識啓発と感染防止対策の強化】

- 手洗い、マスクの着用など基本的な感染症対策のほか、感染リスクの高い行動を避けるなど、感染防止対策を強化徹底するため、関係機関等と連携し全庁をあげて広報・啓発活動に取り組むこと。
- 特に、若い世代の感染が急拡大しているため、予防意識を向上させるよう周知・徹底すること。
- 人流を抑制するため、不要不急の外出やすべての都道府県との不要不急の移動・往来を自粛するよう、積極的に呼びかけること。
- 本市の感染状況や感染症対策を正しく、わかりやすく、速やかに伝えること。

【2. 飲食店の休業および営業時間の短縮】

- 事業者や関係団体等に対し、休業及び営業時間の短縮などの要請内容を周知徹底するとともに、業種別ガイドラインを遵守するなど、感染防止対策を徹底するよう積極的に呼びかけること。
- 特に酒類の提供禁止については、事業者に多大な影響を及ぼすため、本市の状況を理解いただくよう丁寧な説明を行うこと。

【3. 大規模集客施設の営業時間の短縮】

- 事業者や関係団体・指定管理者に対して、業種別ガイドラインを遵守し、感染防止対策を徹底するとともに、入場者の整理及び誘導等を要請するよう呼びかけること。
- 指定管理者等と連携し、営業時間の短縮要請の周知徹底を行うこと。

公の施設の管理運営に関する基本的な考え方

資料4

【市の対応方針】

- 公の施設の管理運営については、関係機関と連携し業種別ガイドラインを遵守した上で、原則開館すること。ただし、周遊の促進につながる観光施設などにおいては、県の要請に基づき、原則休館とするよう指定管理者等と調整すること。
- 人流を抑制し、人と人との接触機会を減らすため、特に県外からの利用自粛を呼びかけるよう施設管理者と調整すること。
- 営業時間短縮要請の対象となった大規模集客施設（1,000㎡超）については、
 - ・営業自粛時間を午後8時から翌朝午前5時までとする。（但しイベント開催時は午後9時から翌朝午前5時まで）
 - ・人数上限（5,000人）かつ収容率（50%以内）のいずれか小さい方とする。（イベント関連施設）
 - ・飲食を提供する場合は、飲食店か否かにかかわらず、飲食店に対する要請内容に準ずること。
- 営業時間短縮要請の対象とならない（1,000㎡以下）施設については、施設の利用形態や利用状況等に応じて必要な感染防止対策を講じることとする。（詳細は次ページのとおり）
- 上記の対応方針については、施設管理者や利用者等と調整し、早急に対応すること。
- なお、施設の営業時間短縮等における指定管理料の取扱いについては、総務課及び財政課と別途協議すること。

【1,000㎡以下の施設の取扱い】

○施設の利用形態・利用状況が

- ①大きな声を発することが伴う活動をする場合
- ②密集する運動や近距離で接する場面が多い場合
- ③複数人が集まり、呼気が激しくなるような活動をする場合
など、感染するリスクが高いと思われる施設の利用形態等の場合は、施設管理者等と協議・調整し、午後8時までの営業時間の短縮や利用人数の制限等の対応を検討すること。
なお、営業時間の短縮や利用人数の制限等を行う場合は、感染拡大防止の観点等から、利用者等に理解いただけるよう丁寧に説明すること。
※施設管理のしやすさや利用者への分かりやすさ等の観点から安易に制限を行わないこと。

○施設の利用形態・利用状況が

- ①大きな声を発することが伴わない活動をする場合
- ②講座、講演会、会議など激しい活動が伴わない場合
- ③十分な人と人との間隔が確保されるなど、人と接触する機会が少ない場合
など、感染するリスクが低いと思われる施設の利用形態等の場合は、営業時間の短縮等の対応は行わないこととする。

催物の開催に関する基本的な考え方

【市の対応方針】

- イベント開催に当たっては、国の「基本的対処方針に基づく催物の開催制限」や、静岡県の「イベント開催における感染防止方針」等を遵守することとする。
- 人流を抑制し、人と人との接触機会を減らすため、特に県外からの参加を控えるようイベント主催者等に働きかけること。
- イベント主催者等に対し、国及び県が示す感染防止対策を徹底するよう働きかけるとともに、イベント開催について慎重な判断が必要な場合は、主催者等と調整すること。
- 特に、全国的な移動を伴うイベント、参加者が1,000人を超える大規模イベントは、感染するリスクが高まるため、イベント主催者等と調整し、感染防止対策に万全を期すこと。
- イベント開催における飲食の取扱いについては、酒類提供を含め、飲食店に対する要請内容に準じることとなるため、特に留意すること。

<参考資料>

- 新型コロナウイルス感染症に係るイベント等の開催に関する基本方針（令和3年1月21日改正）
- 基本的対処方針に基づく催物の開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項等について（事務連絡 令和3年8月17日）
- 静岡県イベント開催における感染防止方針（令和3年7月26日版）
- 静岡県イベント開催におけるチェックリスト 主催者用（令和3年7月26日版）
- 全国的なイベント等の相談対応マニュアル 市町向け（令和3年7月26日改訂）
- 業種別ガイドライン
- ふじのくにシステム

感染状況に応じたイベント開催制限等について（6/17～の取扱い）

	収容率※4	人数上限※4	営業時間短縮
緊急事態措置区域	50%	5,000人	21時まで
まん延防止等重点措置		(まん延防止等重点措置の都道府県) 5,000人	
緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置解除後の 経過措置 (約1か月)	大声なし※1 100%以内 大声あり※2 50%以内	5,000人 又は 収容定員50%以内(≦10,000人) のいずれか大きい方 注：大規模施設の実証調査を実施。実証開始前10,000人 →実証時20,000人に緩和。	都道府県の判断
その他都道府県※3		5,000人 又は 収容定員50%以内 のいずれか大きい方	なし

- ※1 大声での歓声、声援等がないことを前提とする場合。この判断は、実態に照らして、個別具体的に判断。この場合、収容定員5,000人までの施設については、満席とすることが可能となる。
- ※2 大声での歓声、声援等が想定される場合等。異なるグループ間では座席を1席空け、同一グループ（5人以内に限る。）内では座席間隔を設けなくともよい。すなわち、収容率は50%を超える場合がある。
- ※3 施設の使用制限は、収容率要件など、必要な感染防止策を働きかける（人数上限なし）。
- ※4 収容率と人数上限でどちらか小さいほうを限度（両方の条件を満たす必要）。

令和3年8月17日 事務連絡
「基本的対処方針に基づく催物の開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項等について」から参照

イベント開催時の必要な感染防止策①

(1) 徹底した感染防止等 (収容率50%を超える催物を開催するための前提)

①	適切なマスク着用徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク着用状況を確認し、個別に注意等を行い、マスクの常時着用を求める *マスクを持参していない者がいた場合は主催者側で配布・販売を行い、マスク100%を担保。
②	大声を出さないことの担保	<ul style="list-style-type: none"> ・大声を出す者がいた場合、個別に注意等を行う *隣席の者との日常会話程度は可 (マスクの着用が前提) *演者が歌唱等を行う場合、舞台から観客まで一定の距離を確保 (最低2m)

(2) 基本的な感染防止等

③	①～②の奨励	<ul style="list-style-type: none"> ・①～②は、イベントの性質に応じて可能な限り実行 (ガイドラインで定める) *マスク着用状況が確認でき、着用していない場合は個別に注意等を行うこと *大声を出す者がいた場合等、個別に注意等を行うこと (例: スポーツイベント等ではラッパ等の鳴り物を禁止すること等) *大音量のBGMは大声での会話を誘発する可能性があるため、BGMの音量を上げすぎないように留意する
④	手洗の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめな手洗の徹底を促す
⑤	消毒	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者側による施設内 (出入口、トイレ、ウイルスが付着した可能性のある場所等) のこまめな消毒、消毒液の設置及び手指消毒を促すこと
⑥	換気	<ul style="list-style-type: none"> ・法令を遵守した空調設備の設置による常時換気、こまめな換気 (1時間に2回以上、1回に5分間以上。または室温が下がらない範囲での常時窓開け) ・乾燥する場面では湿度40%以上を目安に加湿
⑦	密集の回避	<ul style="list-style-type: none"> ・入退場時の密集回避 (時間差入退場等)、待合場所等の密集回避 *必要に応じ、人員の配置、導線の確保等の体制を構築するとともに、入場口・トイレ・売店等の密集が回避できない場合はそのキャパシティに応じ、収容人数を制限
⑧	身体的距離の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・大声を伴う可能性のあるイベントでは隣席との身体的距離の確保。具体的には、同一の観客グループ間 (5名以内に限る。) では座席を空けず、グループ間は1席 (立席の場合1m) 空ける。 ・演者が発声する場合には、舞台から観客の間隔を2m確保 ・混雑時の身体的距離を確保した誘導、密にならない程度の間隔 (最低限人と人とが触れ合わない程度の間隔)

イベント開催時の必要な感染防止策②

(2) 基本的な感染防止等 (続き)

⑨ 飲食の制限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食用に感染防止策を行ったエリア以外での飲食の制限 ・ 休憩時間中及びイベント前後の食事等による感染防止の徹底 ・ 過度な飲酒の自粛 ・ 食事は長時間マスクを外すことが想定され、隣席への飛沫感染のリスクを高めるため、収容率が50%を超える場合、飲食可能エリア以外（例：観客席等）は原則自粛。 （発声がないことを前提に、飲食時以外のマスク着用担保、会話が想定される場合の飲食禁止、十分な換気等、一定要件を満たす場合に限り、食事可。）
⑩ 参加者の制限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入場時の検温、入場を断った際の払い戻し措置 * ただし、発熱者・有症状者の入場は断る等のルールをイベント開催前に明確に規定し、当該規定を十分周知している場合は払い戻し不要。
⑪ 参加者の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座席指定、動線確保などの適切な行動管理 ・ 可能な限り事前予約制、あるいは入場時に連絡先の把握 ・ 接触確認アプリ（COCOA）のダウンロード推奨や各店舗における各地域通知サービスの登録・利用者のQRコード読取奨励（アプリのQRコードを入口に掲示すること等による具体的な促進措置の導入）
⑫ 演者の行動管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有症状者は出演・練習を控える。体調が悪いときは医療機関等に適切に相談 ・ 演者・選手等と観客が催物前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じるとともに、接触が防止できないおそれがあるイベントについては開催を見合わせる ・ 合唱等、声を発出する演者間での感染リスクへの対処
⑬ 催物前後の行動管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント前後の感染防止の注意喚起 * 可能な限り、予約システム、デジタル技術等の活用により交通機関・飲食店等の分散利用を促進
⑭ ガイドライン遵守の旨の公表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主催者及び施設管理者が、業種別ガイドラインに従った取組を行う旨、HP等で公表

(3) イベント開催の共通の前提

⑮ 入退場やエリア内の行動管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域的なこと等により、入退場や区域内の行動管理ができないものは開催を慎重に検討 * 来場者の区画を限定、管理した花火大会などは可。具体的には、①身体的距離の確保、②密集の回避、③飲食制限、④大声禁止、⑤催物前後の行動管理、⑥連絡先の把握等を担保することが求められる。
⑯ 地域の感染状況に応じた対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模イベントは、事前に収容率制限等も含めて都道府県と相談 ・ 地域の感染状況の変化があった場合は柔軟に対応

※上記のうち、基本的な感染防止等が徹底されていない場合、従来の目安（人数上限5,000人又は収容率要件50%のいずれか小さいほう）を原則として、各都道府県が個別のイベント開催について適切に判断すること。

学校等の活動における基本的な考え方

【市の対応方針（学校・こども園）】

- 教職員や保護者と協力して、園児・児童・生徒等に対して、基本的な感染症対策を強化するとともに、感染リスクの低減を図るための対策を実施すること。
- 小中学校及び高等学校の教育活動については、感染症対策を講じながら、可能な限り工夫をして、授業・学校行事・部活動等を継続し、児童生徒の健やかな学びを保障すること。
そのため、一斉の臨時休業は実施せず、各学校は保護者と協力して、感染症対策を強化するとともに、感染リスクの低減を図るための対策を実施すること。
- 児童・生徒、教職員は、自身及び同居家族に発熱等の風邪の症状がある場合には、登校・出勤しないようにすること。
また、「3密」の回避（「1密」にも留意）、屋外での活動においても感染症対策を講じること、手洗いなどを徹底すること。
特に、密集する運動や多くの人が集まる行事などの感染リスクの高い活動は、回避すること。
- 授業の実施については、必要に応じて、宿題プリントの配布やオンラインによる授業の手立てを講じて、家庭でも学習できる環境を整えること。
また、部活動については、適切な感染症対策を講じた上で、少人数・短時間での活動にとどめるとともに、部室利用や帰宅するまでの行動についての指導も徹底するなど活動時間や内容に十分配慮し、実施可能な範囲での活動とすること。